

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2018.7) 平成29年度:67.

看護師の夜間業務の現状と課題 —看護業務量・ナースコールデータからの分析—

大宮 剛, 佐藤 こずえ, 井戸川 みどり

# 看護師の夜間業務の現状と課題

## —看護業務量・ナースコールデータからの分析—

キーワード：夜間業務・看護業務量・ナースコール

○大宮 剛・佐藤 こずえ・井戸川 みどり

旭川医科大学病院 看護部

### I. 目的

A病院Bナースステーションは、糖尿病・膠原病・内分泌・消化器・神経内科及び整形外科の混合病棟である。2015年度に調査したナースコール回数は夜勤の時間に多く、対応に遅れを生じていることが懸念された。そこで今回、夜間の看護業務量・ナースコールデータから、夜間業務の現状を把握し、課題を明らかにしたいと考えた。

### II. 方法

1. 期間：2016年12月13日～15日16時～9時30分。

2. 研究対象：Bナースステーション看護師18名。

3. データ収集方法：

(1)測定器具：看護業務量は、株式会社ケアコム社製業務マネジメント支援サービスを使用し、リモコン受信端末を設置した。ナースコールデータは既存のナースコールシステムを用いた。

(2)看護業務測定項目：先行研究<sup>1)</sup>を参考に、『直接看護』の「環境整備」「清潔ケア」「排泄ケア」「食事・栄養」「体位変換」「診療上の世話」「意思決定支援」「生活指導」「観察」「移送」「点滴・注射」「与薬」と、『間接看護』の「記録」「指示受け」「内服管理」「話し合い」「多職種と連携」「入院時ケア」「退院時ケア」「休憩」の20項目とした。

(3)測定方法：看護業務量は業務実施時に、内容を設定した20項目から選択し業務量調査リモコンのボタンを業務開始時、終了時に押した。ナースコールデータはコール回数をシステムから抽出した。

4. 分析方法：看護業務項目毎に累積時間を集計した。ナースコール回数・応答時間、業務時間は時間毎に単純集計し比較検討した。また看護業務量とナースコール回数は影響を及ぼすと考えられた要因と重回帰分析を行った。有意水準は5%未満とした。

### III. 倫理的配慮

対象者には研究の趣旨と方法を口頭で説明し、携帯するリモコンのナンバー表へイニシャルの記載をもって同意を得た後、個人が特定されないよう符号化した。本研究はA病院倫理委員会の承認を得て実施した。本演題発表に関連して開示すべき利益相反はない。

### IV. 結果

業務割合が高いのは、「記録」21%「排泄ケア」16%「観察」と「与薬」が13%で直接看護の割合が71%を占めた。

業務量が多いのは19時台、17時台、8時台の順で、ナ

ースコール回数は20時・8時台が平均16回で最も多く、次いで7時台であった。ナースコール回数が多いと業務量も多くなり強い相関を認めた ( $r=0.76$ ,  $P=0.00$ )。業務量の多い19時・17時台で業務割合が高かったのは「観察」で、8時台は「食事・栄養」であった。また業務量が多い時間帯はナースコール応答時間が遅延していた。

業務量・ナースコール回数は、【重症度、医療・看護必要度】、【病棟稼働率】、【手術・検査件数】、【入院患者の転倒転落スコアの平均点】、【看護師経験年数】、【部署経験年数】の要因と有意差はなかった (n. s.)。

### V. 考察

夜間でも直接看護が多く、その中で「排泄ケア」が最も多い。Bナースステーションは神経難病や膠原病で筋力が低下している患者が多く、転倒リスク2以上の患者が25～60%、重症度、医療・看護必要度B項目3点以上の患者が20～35%を占め、介助が必要な患者の割合が高い。業務内容は患者状態の影響を受けていることが予測される。

ナースコール回数が多いと応答の遅れがみられた。業務量の多い17時台で業務割合が高い「観察」は勤務交代時に患者やモニター等の機器の観察と確認を行っている。17時台は夕食前の時間でもあり「与薬」「点滴・注射」の業務も重なることで多忙をきたし、ナースコール応答時間も遅延していると考えられる。岩井<sup>2)</sup>は看護の質の保持と共に早く情報を得て、時間の効率をはかる方法としてウォーキングカンファレンスの有効性を述べている。今後、同カンファレンスの導入や先取り介入の精選、また人員配置・勤務時間帯の変更など業務を見直す必要がある。

### VI. 結論

1. 業務割合は「記録」が最も高かった。直接看護の割合は71%で「排泄ケア」「観察」「与薬」の割合が高かった。
2. 業務量が多い時間帯は、ナースコールが多く、応答時間も遅延しており、業務改善が必要である。

### 引用文献

- 1) 大場薫・佐々木由紀・長能みゆき、他：タイムスタディによる看護業務量調査, 東邦看護学会誌, 第13号, 15-22, 2016.
- 2) 岩井計子・錦織美智枝・長田京子：ウォーキングカンファレンスの長期的継続を可能にした病棟看護師長の思い, 第42回日本看護学会論文集 看護管理, 522-525, 2012.